

目的 家庭から排出されるごみは、日常の生活様式と深い係り合いがある。ごみの排出量を減らすために、生活様式をどのように改善すればよいかを家庭ごみの詳細な組成分析から検討を行う。

方法 K市において、毎年1回、定められた3地域から発生する家庭ごみを約350袋（1100kg）を採取し、その中身を210項目の品目別に分類し、各項目ごとに重量、容積の測定を行う。各組成を用途別に分類整理し、何がごみ増加の要因になっているかを明らかにする。

結果 ここでは、昭和58年秋に行なった調査結果について興味ある点を述べる。

- ①家庭ごみ中、61.3%（容積比）が容器包装材で占められていること。
- ②これら容器・包装材中の52.6%（容積比）がプラスチック製であること。
- ③家庭ごみ中の容器・包装材は、飲食料品用のものが63.6%（容積比）であること。
- ④プラスチック包装材の61.1%は販売過程で使用されたものであること。

以上のことから、問題となるプラスチックごみを減らすためには、スーパー等の販売過程におけるプラスチック包装をどのように制限するか、また各家庭においてどの程度無駄な包装を排除した消費行動をできるかが重要な点と考えられる。